

Annual Report



就業力育成支援室

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町6-42

TEL: 0798-32-7532

E-mail: cplats@otemae.ac.jp

<http://www.otemae.ac.jp/cplats/>

平成24年度 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択事業
『産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実』

平成24年度 事業報告書

教育ボランティア（外部コラボレーター）募集

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価していただく協力者を募集しています。

<活動内容>

- 授業内での活動
 - ・学生の発表評価。
 - ・就業力をつけるための課題提供（可能な方）。

●授業外での活動

- ・学習記録（文章・映像など）をWeb上から評価。
- ・個人面談によるキャリア・アドバイス。

<資格>

- ・本学の教育と本事業の趣旨にご賛同いただける成人の方。
- ・実社会の視点を持ち込んでくださる方であれば現在のご職業の有無、年齢などは問いません。
- ・卒業生、通信教育課程学生の方、歓迎。

<活動時期>

- ・年に数回を予定しております。
- ・活動開始前に2～3時間の研修があります。
- ・基本的にはボランティアでのご協力を想定しており、本学での活動日は交通費程度をご用意しております。

詳しくは上記連絡先にお問い合わせください。



Outline 「映像での成果記録」と「実社会からの視点」を就業力強化に活かします。

学生別コンピテンシー伸張の可視化

— “映像ポートフォリオ”への蓄積と外部評価・フィードバックによる就業力強化システム —

「就職に強いリベラルアーツ型大学」のモデルを目指し、以下の4フェーズに分けて推進します。

I Competency Faculty活動

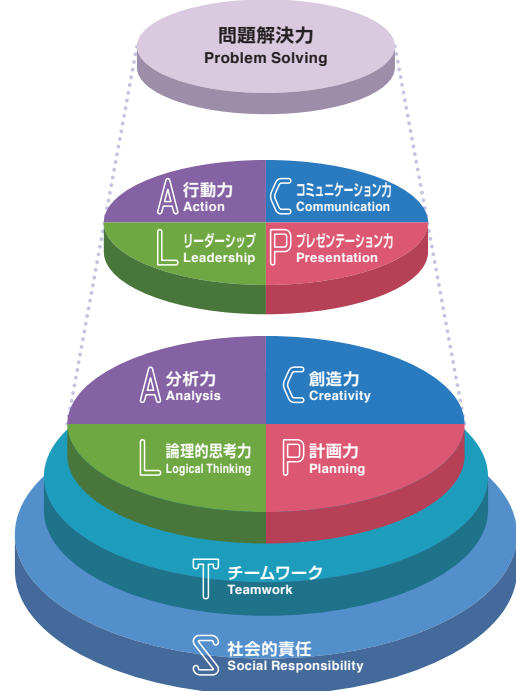
本学独自の問題解決能力開発メソッド「C-PLATS®」をもとに学生を育成します。

全学生が履修する1～4年次必修科目（コア教育）はその成果を実践・応用する場として位置付けし、個々の専門科目では特に重点を置くコンピテンシー項目を指定してその伸張を図ります。

大手前大学はC-PLATS®能力の養成によって、「物事を単に知っている」のではなく、「実際に物事をやり遂げる」人材を育成しています。

<C-PLATS®とは>

リベラルアーツカレッジ・大手前大学がその使命として全ての学生に習得させる社会人基礎能力の体系です。学生が将来どのような道に進もうとも、数々の困難な問題を乗り越えて自らの人生を切り開いていくための10の能力（コンピテンシー）の習得を目指します。



II 就業力育成教育の実施

企業や外部組織との連携を前提とする卒業までの一貫した就業力育成教育を、問題解決型学習 Problem及びProject Based Learning (PBL) 方式により行います。

<PBLとは>

これまで行われていた「知識偏重型教育」は、講義を受けることで「知識レベル」は向上しても、実際にそれを「行動レベル」に結び付けるプロセスを体感するところまで至らず、いわば知識という道具を使えない状態に留まってしまいがちでした。

それを解消すべく、本学は全ての授業において「問題解決型学習」をコンセプトとしたカリキュラムを展開します。これは、まず問題（課題・テーマ）を設定し、その解決策を創造・発表・討論することを通して自然とC-PLATS®能力を習得させることができる学習メソッドです。PBL型学習を反復・継続することで学生の自発的な学習態度が引き出され、「行動できる力」を養うことができるようになります。

学生

成果証明



目標

具体的な就職対策	4年次	就職できる 研究成果をふまえた自己アピールができる 卒業後の進路について自らのキャリアデザインに基づき説明できる
	3年次	企業を選択しエントリーできる 公的な場面でふさわしい振る舞いができる
適性探し・自己分析	2年次	就きたい業種を上げることができる 自分の適性(長所・短所)を上げることができる 自分の専門分野を決めることができる
	1年次	将来を視野に入れた履修選択ができる チームでの約束事を守り共同作業ができる 公的な場面に出て行くことができる

問題解決能力開発
C-PLATS®

大学

教員によるPBL

評価

評価

III 教育効果の記録・蓄積

就業力育成の効果を測定するために、学生の発表などのパフォーマンス映像を記録・蓄積する映像ポートフォリオのシステムを構築します。

これらの映像は、学習過程の記録と併せ、自己評価・学生相互の評価はもとより、科目担当教員および教育ボランティアによる評価のフィードバックを受けるデータになります。

<映像ポートフォリオとは>

実際に授業で行ったプレゼンテーションなどを映像記録として残し、他者が客観的に評価・分析できるようにするためのツールです。データを蓄積できるため、大学生活における個人の成長記録にもなります。

運用に関しては、実際に通信教育課程で用いられているプレゼン映像記録システム（VCメーカー）など、本学で運用実績のあるシステムを最大限に活用します。

教育ボランティア
(外部コラボレーター) による
課題提供／評価

社会

IV 外部との連携

本学の教育改革の取組と成果を豊富な社会経験をお持ちの社会人の目から評価・助言していただき、教育の質を高めるため、平成23年度から教育ボランティアを導入しています。学生は教育ボランティアから課題提供を受け、学生はその研究・解決・実践の成果を授業中および映像ポートフォリオ上で口頭発表し、評価を受けています。

<教育ボランティアとは>

本学の学生の就業力について実社会の視点から評価していただく協力者のことです。

学生は、蓄積した映像ポートフォリオや、教室での活動の様子を教育ボランティアの視点から客観的に評価してもらうことで実社会との接点を見出し、就業への関心・研究心を継続させる原動力を得ることができます。

これらの活動を通じて総合的実践力を高め、就業意欲や就職活動の増強を図り、就職率を向上させることを目指します。

本取組は平成24年度「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」として大阪・兵庫・和歌山の14大学グループによる取組となっています。本学では平成22年度から大学生の就業力育成支援事業「学生別コンピテンシー伸張の可視化」に取り組んできましたが、①Competency Faculty活動、②就業力育成教育の実施、③教育効果の記録・蓄積、④外部との連携の4分野、さらに報告・評価の取組を継続し、一層強化して進めてきました。

I Competency Faculty活動

全専任教職員がコンピテンシー別のグループに分かれ、教育方法の研究などのFD活動を行っています。平成22年度にコンピテンシーの定義・能力開発目的・目標、能力開発体系などを示したOCD (Otemae Competency Dictionary) および、コンピテンシー能力開発のための教育手法がリスト化されたメソッド集を発行しました。この活動では、この見直しの推進と充実を目指しており、教員相互の能力開発手法の発表とディスカッションを通じた成功事例の共有化が毎月行われています。また、9月5日には全学FDにおいて各コンピテンシーのリーダーが活動報告をし



II 就業力育成教育の実施

企業や外部組織と連携して4年間の一貫した就業力育成教育を実施しています。

<FD・SD (教職員の研修等)>

2月16日に専任・非常勤問わず、全教職員対象の「大学教育改革研修」が行われました。この研修は本学の4年間にわたるリベラルアーツ型教育のグランドデザインを明確にし、全学的に取り組むことを目的としたものです。C-PLATS® シラバスのレベルの調整を行うため、もう一度C-PLATS® について説明した後、グループで話し合いました。

<震災復興支援ミュージカル>

東日本大震災により被災された方々への復興支援への思いを込めて昨年度上演され、大きな感動を与えて成功を収めた震災復興支援ミュージカル「あの空をこえて」。今年度は西宮市役所・文化庁のご協力を得て3月7日に再演され、本学の在学生・卒業生が出演しました。

<西宮市のお菓子プロジェクト>



平成23年8月から始まった『西宮市のお菓子プロジェクト』は、西宮市・西宮市商会議所・西宮菓子工業組合と本学が連携し、西宮の伝統産業である



ました。来年度4月には本学の非常勤講師を含めた懇談会で活動報告が行われる予定です。

<OCD>

新入生オリエンテーションにて今年度版のOCD【入門編】を新入生全員に配布し、具体的な内容の説明を行いました。また、本学の活動を全世界へ広めるべくOCD【英語版】も出版されています。

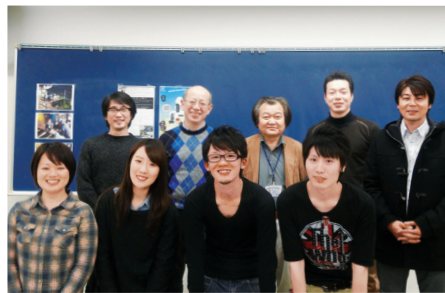
<C-PLATS® シラバス>

今年度から問題解決力を習得するために必要な能力の10項目を全科目のシラバスに表記しています。これにより、各授業で習得できる能力のレベルがより明確になりました。

「お酒」をテーマに、従来の和菓子の概念にとらわれない新しいお菓子を研究・開発し、店頭販売することを目的としてきました。約20名の学生がお菓子の基礎から学び、お菓子作りの実習や工場・店舗見学などを経て、西宮の歴史・文化・産業を活かした商品開発を行い、10月21日の「西宮和菓子祭り」での試作品発表と試食会、アンケート調査を経て、2月12日には作品発表会及び報告会を開催しました。

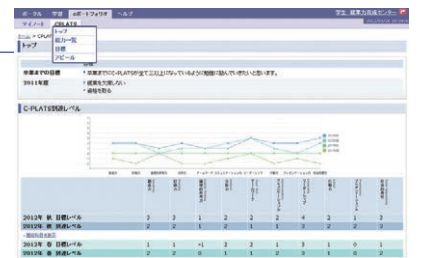
<尾道空き家再生プロジェクト>

プロジェクト参加による学生の社会体験教育と建築の学習に対する向上を目的として、川窪広明教授・井之上節郎准教授（メディア・芸術学部）が中心となり、NPO法人・尾道空き家再生プロジェクトとの協働で尾道市の空き家再生活動に取り組んでいます。平成21年から行われているこのプロジェクトには毎年本学の学生と、国内外の高校生・大学生・社会人が参加しています。プロジェクト終了後も現場の職人さん達との交流は続いており、授業への参加及び授業内におけるアドバイスなどが行われています。



III 教育効果の記録・蓄積

平成23年度から開発を行っているe-ポートフォリオシステムを活用し、必修科目において学生の発表パフォーマンス映像を記録し、そのデータを蓄積しています。今年度からはe-ポートフォリオ上にPBLの課題レポート、プレゼンテーション映像など、課題設定の意図やプロセスが判断できるドキュメント等を定期的に記録・蓄積しています。蓄積された記録は、自己



評価に加え、科目担当教員、教育ボランティアの評価を受けることが可能となっています。

IV 外部との連携

平成23年度から本学の教育改革の取組と成果を豊富な社会経験をお持ちの社会人の目から評価・助言していただき、教育の質を高めるため、教育ボランティア（外部コラボレーター）を導入しています。ホームページなどを用いて募集を行った結果、現在では約200名の方が教育ボランティアに登録されています。

<教育ボランティア>

教育ボランティア候補者には12月と3月に説明会及び研修にご参加いただき、本学が実施している就業力育成教育についてご説明した後、実際に学生のプレゼンテーション映像を見ながら、どのように学生にアドバイスを行うべきかを話し合っていました。



今年度は昨年度の3倍以上の延べ200名の教育ボランティアが初年次・二年度必修科目「キャリアデザイン」の授業に参加し、学生が行ったプレゼンテーションに対して直接コメントやアドバイスをを行いました。また、学生一人ひとりに適切なキャリアアドバイスをを行うため、授業外に学生との個人面談を実施しました。学生の評価については、OCD内に記述したC-PLATS® に基づいた評価軸を基準としました。また、授業後もe-ポートフォリオシステムに蓄積された学習記録について評価をしていただきました。

<PBL型インターンシップ>

夏休みにはPBL型インターンシップに79名の学生が参加し、学外の49の企業等で就業体験を行いました。事前研修では業界研究を行い、学生自ら課題を見つけ、調査・分析し、考えをまとめた上でインターンシップに臨みました。

10月9日に実施されたインターンシップ・プレゼンテーション大会では、インターンシップ参加全学生の中から選ばれた7名が「私が就業体験で得たもの」をテーマに



プレゼンテーションを行いました。授業終了後の遅い時間からの開始にもかかわらず、本学の教職員を始め、インターンシップへの参加を希望している学生、学外からも多くの方が集まり、会場はほぼ満員でした。

<社会人基礎力育成グランプリ>

11月27日に開催された「社会人基礎力育成グランプリ2013 近畿地区予選大会」（日本経済新聞社主催・経済産業省共催）に本学のチームが参加し、奨励賞を受賞しました。



山下真知子准教授（現代社会学部）のゼミナールでは小中学校のトイレ施設における心理・教育的支援に配慮した色彩設計に関する研究を行っており、実際に学生が西宮市内の公立の小中学校のトイレをペイント・リノベーションしています。



今回はこの取組について、山下准教授のゼミ生3名が『色のチカラで社会貢献』というタイトルで発表を行いました。

<全学プレゼンテーション大会>

2月8日には全学プレゼンテーション大会が開催され、教育ボランティア10名に審査員としてご協力いただきました。学外者が参加され、普段と異なる緊張感が生まれた場面において、学生たちは堂々とプレゼンテーションを行いました。教育ボランティアの方々の社会人の視点による客観的な評価をい

ただくことにより、プレゼンテーション力やコミュニケーション能力、分析力、論理的思考力などのコンピテンシーの質保証の担保へ向けた取組となりました。



Assessment

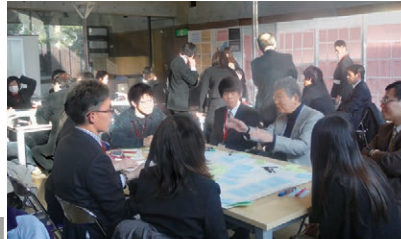
評価・報告

本取組を点検・評価するとともに、その成果を広く知らせてゆくため、毎年下期にフォーラムを開催し、年次報告書を発行します。

大阪・兵庫・和歌山の14大学が主催した3月4日の合同フォーラムでは、午前中の公開委員会で「大手前大学のPBL授業の展開実例と悩み」のタイトルで事例を発表しました。午後の学生企画「学生のホンネ～4つの問題を通して」では本学の1年生2名を含む学生グループが企画から運営までを行いました。

また、3月25日には「教育ボランティア座談会」を開催しました。教育ボランティアの方にお集まりいただき、本学の取組に対して評価・助言を行っていただきました。

平成25年度も引き続き評価活動にも力を入れ、内部評価と教育ボランティアを始めとする外部の有識者による第三者評価を行っていきます。



Message

「就職に強いリベラルアーツ型大学」をめざして



大手前大学
学長 柏木 隆雄

大手前大学は、入学する学生に「社会人基礎力」をつけさせ、彼らが自ら「創る専門性」を尊ぶ教育を行ってきました。教員間の授業見学、学生の授業アンケートの実施で、教育力の充実を図り、学生の能力開発についてはアルバーノ大学を範として、さらに新しいアイデアを盛り込んだC-PLATS®を策定、Creativity, Communication, Planning, Presentation, Logical Thinking, Leadership, Analysis, Action, Teamwork, Social Responsibilityの10の能力を体得する教育も本格化しています。

多様な分野を幅広く学ぶ過程で、批判的思考力や課題発見・解決能力の育成を図り、「学習能力の肝要と健全で思慮深い判断力の育成」というリベラルアーツ・カレッジの理想へと着実に踏み出しました。必修の「キャリアデザイン」科目は、コア・リーダーの策定するプログラムをほぼ全教員が担当し、その成果は全学生の参加するプレゼンテーション大会で披露され、学生たちの発表能力は目を見張る成果を見せました。

特筆すべきは近隣の一般企業人や卒業生からなる200名に及ぶ教育ボランティアが大学の活性化に大きな力となっていることです。全学プレゼンテーション大会に至る過程から大会までそのアドバイスがきわめて有効に働き、同時に大手前大学の存在も強く印象づける役割を果たしています。

またe-ポートフォリオシステムを開発・完成させ、各授業を通して教育効果の記録・蓄積を行う基盤を確立したことも効果的でした。

こうした教職員、学生、そして教育ボランティアの人たちが一体となって、学生の就業能力のさらなる育成を期したいと思っています。



Schedule

年次計画

平成24年度実績

I. Competency Faculty

- ・C-PLATS® シラバスの導入 (全科目)
- ・OCD 2012【入門編】発行 (4月)
- ・Competency Faculty活動実施 (毎月)
- ・C-PLATS® 項目の改定・ループリック作成 (4月～)
- ・Competency Faculty活動報告 (9月)

II. 就業力育成教育

- ・1、2年生PBL充実 (4月～)
- ・教員相互の授業参観による教育の質の向上 (4月～)
- ・ピアサポーター制度の充実 (4月～)
- ・PBL型インターンシップ実施 (7月～10月、2月)
- ・お菓子プロジェクト (9/20、10/21、2/12)
- ・全学プレゼンテーション大会 (2/8)
- ・震災復興支援ミュージカル (3/7)

III. 教育効果の記録・蓄積

- ・e-ポートフォリオシステム運用 (4月～)
- ・1、2年生映像ポートフォリオ収録開始 (4月～)

IV. 外部との連携

- ・教育ボランティア募集継続 (4月～)
- ・就業力育成支援室Webページ更新 (毎月)
- ・教育ボランティア研修 (12月、3月)
- ・教育ボランティア運用 (6月～)

報告・評価

- ・合同フォーラム実施 (3/4)
- ・第三者評価実施 (3/25)
- ・報告書発行 (3/31)

平成25年度計画

I. Competency Faculty

- ・C-PLATS® シラバスの発展 (全科目)
- ・OCD 2013【入門編】発行 (4月)
- ・Competency Faculty活動実施 (毎月)
- ・C-PLATS® 項目の改定・ループリック作成 (4月～)
- ・Competency Faculty活動報告 (9月)

II. 就業力育成教育

- ・1、2年生PBL充実 (4月～)
- ・教員相互の授業参観による教育の質の向上 (4月～)
- ・ピアサポーター制度の充実 (4月～)
- ・PBL型インターンシップ実施 (7月～10月)
- ・全学プレゼンテーション大会 (2月)

III. 教育効果の記録・蓄積

- ・e-ポートフォリオシステム運用 (4月～)
- ・1、2年生映像ポートフォリオ収録開始 (4月～)

IV. 外部との連携

- ・教育ボランティア募集継続 (4月～)
- ・就業力育成支援室Webページ更新 (毎月)
- ・教育ボランティア研修 (12月、3月)
- ・教育ボランティア運用 (6月～)
- ・教育ボランティア3年生ゼミへの導入 (11月)
- ・キャリアカフェ開催 (6月)

報告・評価

- ・合同フォーラム実施 (12月)
- ・第三者評価実施 (3月)
- ・報告書発行 (3月)